

# 区内で病床確保→治療後、かかりつけ医に橋渡し

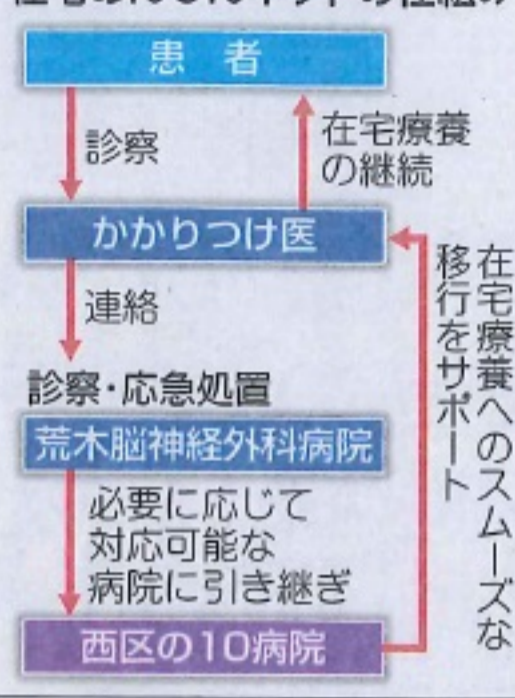
## 病院連携 在宅療養後押し

広島市西区の病院がスクラムを組み、住み慣れた自宅での療養を望む患者をサポートする区医師会の「在宅あんしんネット」が軌道に乗りつつある。容体が急変した場合、2次救急レベルまでなら24時間態勢で空き病床に受け入れ、治療後にかかりつけ医へ橋渡しする。昨年7月のスタート以来、搬送先のたらい回しゼロが続く。

(永里真弓)

### 西区医師会「あんしんネット」

#### 在宅あんしんネットの仕組み



## 救急搬送 たらい回しゼロ

区内のかかりつけ医を自宅や入所施設に迎えて療養している患者が対象。かかりつけ医は患者に入院や手術が必要となった場合、事業の中核を担う荒木脳神経外科病院(庚午北)に連絡。同病院は患者をいったん受け入れて応急処置し、適切な治療を施せる区内の病院につなぐ。かかりつけ医は、患者が退院後に再び在宅療養できるよう、入院先の病院やケアマネジャーと診療情報を共有する。

県の在宅医療推進拠点整備事業として始めた。導入に当たり、患者を受け入れられる11

病院で約30人分の空き病床を確保。ことし1月までに46人の利用があった。区内のある高齢者施設は「これまでは入所者のために救急車を呼んでも、受け入れ先がすぐに見つからなかった。今では確実に受け入れてもらえるので安心」という。

当面の課題は人件費やシステム構築費の確保。準備期間を含めた2013、14年度は県から計800万円の助成があったが、15年度以降は全額を区医師会と病院が負担する。費用の工面方法を模索している区医師会の篠原

秀久会長は「地域完結型の医療を目指し、安心して地域で暮らせる仕組みをつくりたい」と話している。

◇ 西区医師会は14日午後3時から、区民文化センター(横川新町)で活動報告を兼ねた公開講座を開く。無料で定員200人。申し込みが必要。荒木脳神経外科病院8082(272)1130。